

東京都立 多摩総合医療センター

国分寺市の自然・歴史・文化・医療

国分寺市医師会
会長 知念 信昭



□ 頃から医療連携・学術講演会への講師派遣・防災訓練への災害コーディネーター派遣等、色々お世話になっております。この機会に国分寺市と医師会について紹介致します。

国分寺市の人口は約12万人。先日の国保運営協議会では国分寺市国保加入者が減少し、後期高齢者が増加しているとの報告から、国分寺市でも急速な高齢化が始まっていると実感しています。

国分寺の街は明治時代の甲武鉄道、現在のJR中央線に沿って発展し、住宅街は東西に広がっています。最近では高層マンションも増え都会の様に見えますが、駅から少し離れると田畑や雑木林が点在する昭和の風景が沢山残っています。

国分寺市のスローガンを平たく言うと「自然・歴史・文化の街」となります。

まず自然ですが、医師会事務所に隣接する都立武蔵国分寺公園には、オオタカ（いつもではありませんが）やカワセミが見られ、秋から春にかけて沢山の冬鳥が集まってきます。その南側にある崖線（ハケ）下の「お鷹の道」では、湧水が豊かで初夏に蛍が舞い（ボランティアが保護しています）、夏休みには子供達がザリガニ釣りに夢中になる風景は、私の子供の頃から変わっていません。

歴史については、鎌倉時代末期、新田義貞率いる討幕軍と鎌倉幕府軍との「分倍河原の合戦」で、天平時代に創建された武蔵国分寺は焼け落ちてしまいましたが、この合戦の後、新田義貞から寄進された薬師堂には、国の重要文化財に指定されている薬師如来像が安置され、毎年10月10日の御開帳の日一般公開されています。

文化については、日立中央研究所、リオネット補聴器で有名な音響研究所の小林理研、鉄道の研究開発をしている鉄道中央技術研究所があり、ペンシルロケット打ち上げ実験成功の地でもあります。また、アニメのタツノコプロも、つい最近まで市内に本社があったことから、市のゆるキャラ「ぶんじほたるホッチ」を制作しています。

最後に医師会について紹介します。医師会の会員数は135名（皆良い人ばかりです）、医療機関数99、東京都医師会直接の下部組織ではなく、北多摩医師会へ役員を送り東京都医師会の業務を各市で分担する形態をとっています。

東西に長い自治体ですので地域住民の利便性を考慮し、健診・予防接種での周辺自治体との広域連携を推進しているところです。また、市内には中核となる高機能病院がないため、災害医療対策、健診・がん検診等を実施するにあたり、近隣自治体医療機関との連携がとても重要で、特に多摩総合医療センターとは様々な分野で密接に連携をさせて頂いております。

これからも宜しくお願い致します。



精神神経科のご紹介

精神神経科部長 山本 直樹



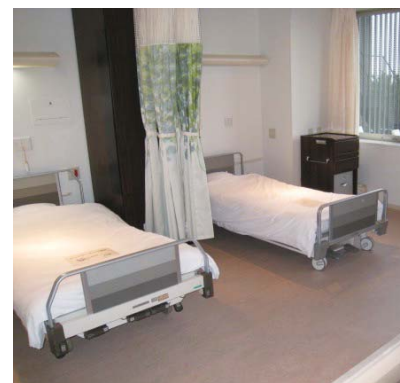
日頃より当科診療にあたりまして、地域医師会、医療機関の先生方には多大なご支援をいただきまして感謝申し上げます。

精神神経科は他科に比べますと「直接どのように医療連携をはかればよいのかよくわからないなあ」、あるいは『急性期医療・身体合併症』の多い当院精神神経科へのご依頼に関して「どの程度の症状の患者さんなら受けてくれるのだろうか？病棟の様子もよくわからないし、イメージしづらい。紹介するにはちょっと敷居が高いなあ」とお感じの先生方も多いのではないかと危惧いたしております。そこで、この場をお借りして当科の入院加療と病棟につきましてご案内申し上げます。当院の3階から11階までの病棟部門（20,242平方メートル）のうち、当科の病棟は4階の北半分のエリア（4N）に位置します。ご覧の写真では4階左側コーナーを中心として左側面（東側の半分）から手前に（東西に）広がった場所に相当します。精神科予算定床30床として運用しております。



精神科救急入院料の加算制度変更後は病床の半分以上が個室であることが要件となりましたが、当科の病棟では30床のうち18床を個室として利用いただけます。東側の窓からは晴れた日には、はるかに東京スカイツリーも望めます。一方で、「私はどうも個室は苦手です」という方もいらっしゃるのも事実です。4床室の写真を掲載させていただきました。多摩・府中のけやきの「森のホスピタル」の雰囲気イメージしたカーテン等でプライバシーにも配慮したゆったりとした構造で、トイレ・洗面もそれぞれの病室内に付設されています。中庭も広く季節ごとにアサガオやツワブキなどを楽しむことができます。この3年間、当科病棟の平均在院日数は21日から23日、病床利用率94%から98%で推移しております。薬物療法と精神療法、休息を含めた環境調節が主体ですが、薬物治療抵抗性うつ病性障害には手術室を使用した修正型電気けいれん療法（mECT）を施行しています。現在、常勤医師7名（精神保健指定医）、シニアレジデント2名及び非常勤（常勤的勤務）医師3名の12名の精神科医が外来・病棟及びリエゾン診療にあたっております。入院のご依頼・ご相談につきましては当科医療相談担当の2名のワーカーあるいは私か病棟長（入院担当医）までご連絡いただければ幸いです。

なお、当科を基幹とする専門医プログラムが機構承認され、平成30年度より新制度での精神科専攻医の育成を開始いたします。より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。





オピオイド鎮痛薬過量への対応を要した 難治性疼痛の2症例



緩和ケア科 常勤的非常勤医師
杉原 有希

【症例】 81歳男性 78歳時に前立腺癌・多発骨転移と診断され、ホルモン療法が行われていたが、81歳時に治療終了となった。骨転移による背部痛にフェンタニル貼付剤が投与されたが改善はなく、毎週の外来ごとに増量された。その後寝たきりとなり、主治医は臨死期と判断し緩和ケア病棟に即日紹介入院となった。

入院時、JCS II -20、呼吸回数7回/分、両側縮瞳、覚醒時は幻覚妄想状態であった。疼痛に対しフェンタニル貼付剤375 μg/hr (モルヒネ経口900mg/日相当)が使用されていた。

入院後、フェンタニルを1週間に2割ずつ漸減、下肢神経障害性疼痛も併存したためプレガバリンも開始した。せん妄に対しては、入院時から抗精神病薬で加療した。入院翌週からは、終日を覚醒して過ごせるようになった。フェンタニルは75 μg/hr (モルヒネ180mg/日相当)まで減量したが、疼痛の訴えはなく経過した。

【症例2】 53歳女性 43歳時に左乳癌・リンパ節転移に対して手術+放射線照射後、転移再発に対し抗癌剤やホルモン療法で治療中の患者。52歳時に胸椎転移のため両下肢不全麻痺となり、背部と下肢の疼痛にフェンタニル貼付剤が投与されていた。53歳時、疼痛のため救急要請、患者が「抗がん治療は止めたい、早く終わりにしたい、緩和ケア病棟へ入院したい」とつよく希望し入院となった。

入院時は過換気、興奮しながら激痛を訴えていた。両側縮瞳あり。疼痛に対してNSAIDsとフェンタニル貼付剤600 μg/hr (モルヒネ経口1440mg/日相当)が使用されていた。

入院後、フェンタニル貼付剤の一部をモルヒネ持続皮下注射へ変更したうえで漸減した。神経障害性疼痛に対してプレガバリンとステロイドを開始し、パニック発作には抗不安薬を開始した。オピオイド量はフェンタニル貼付剤20 μg/hr+モルヒネ持続皮下注96mg/日 (モルヒネ経口672mg/日相当)まで疼痛なく漸減できた。疼痛の改善に伴い気分も安定し、一般病棟へ転出して抗がん治療を再開することができた。

【考察】 オピオイドの種類や剤形は年々豊富になり、非がん性疾患への適応拡大や、医療者の鎮痛への意識の高まりもあり、多くの患者にオピオイドが処方されるようになりました。稀ではありますが、鎮痛に難渋した結果オピオイド量を急激に増やさざるを得ず、過量投与に至った症例を前任地で経験したため詳述いたしました。

がん患者において、悲嘆、孤独、恐怖などの感情や、抑うつ、せん妄などの精神症状は、患者が疼痛を認知する閾値を下げるとされています。疼痛への薬物治療と同時に、患者の抱える全人的問題や精神症状にも目を向け、多角的に介入することで、良好な鎮痛が得られ、オピオイドの適正使用につながります。

当院には緩和ケア病棟はなく、他診療科に通院・入院中の患者さんの症状コントロールを行う緩和ケアチームとして活動しております。安全で確実な症状コントロールが行えるよう、支援してまいります。

.....市販されている主なオピオイド鎮痛薬.....

一般名	徐放剤	速放剤 (レスキュー)	注射剤
コデインリン酸塩		コデインリン酸塩錠・末	
トラマドール		トラマール錠 (トラムセット配合錠)	トラマール注
モルヒネ	MSツツイスロンカプセル MSコンチン錠 モルベス細粒 パシーフカプセル カディアンカプセル・粒 ピーガード錠	オプソ内服液 モルヒネ塩酸塩錠・末 アンパック坐剤	モルヒネ塩酸塩注
オキシコドン	オキシコンチン錠 オキシコドン徐放カプセル	オキノーム散	オキファスト注
フェンタニル	フェントステーブ ワンデュロパッチ デュロテップMTパッチ	イーフェンバツカル錠 アブストラル舌下錠	フェンタニル注
メサドン		メサペイン錠	
タペンタドール	タペンタ錠		
ヒドロモルフォン	ナルサス錠	ナルラピド錠	



都立多摩総合医療センター 人事異動

【転出】平成29年9月1日付
脳神経外科医員 久保田 真由美

【退職】平成29年9月30日付
脳神経外科医員 小泉 聡

【転入】平成29年10月1日付
リウマチ膠原病科医長 島田 浩太
脳神経外科医員 本郷 博貴

【採用】平成29年10月1日付
産婦人科医員 郡 悠介

【転出】平成29年10月1日付
産婦人科医員 雨宮 貴子

各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け)

第90回医療連携臨床懇話会

平成30年1月18日(木) 午後7時～午後9時 4階401会議室

- 「形成外科領域の再建、再生医療」 形成外科 部長 磯野 伸雄
- 「診断しづらい膝痛やスポーツ疾患」 整形外科 医員 田原 圭太郎

※演題等に変更がある場合がございます。詳細は別途ご案内いたします。

公開C P C 各日とも午後6時～午後7時 4階401会議室

平成29年12月21日(木)、平成30年1月25日(木)、平成30年3月15日(木)

各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け)

※参加無料、事前予約不要です

糖尿病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

- 「糖尿病とインスリン」「インスリン製剤の管理」「年末年始の食生活」
日時：平成29年12月20日(水) 午後2時～午後4時
- 「糖尿病と脳梗塞」「尿検査」「脳梗塞予防の食事管理」
日時：平成30年1月17日(水) 午後2時～午後4時
- 「糖尿病と心臓」「糖尿病の運動療法」「心電図について」
日時：平成30年2月14日(水) 午後2時～午後4時

※詳細はホームページをご覧ください。

当院は原則として、**紹介予約制**です。外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは医療連携担当(内線2171)まで

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL : 042-323-9200

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX : 042-323-9205

緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

連携医ホットライン：042-312-9119 月～土 9:00～20:00(祝日年末年始は除く)

連携医の先生方専用の当院医師への直通電話です。当日の緊急診療依頼にぜひご利用ください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。

東京都立多摩総合医療センター 〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111(代表)

